

白石市民の意識調査報告書

～男女共同参画社会を推進していくために～

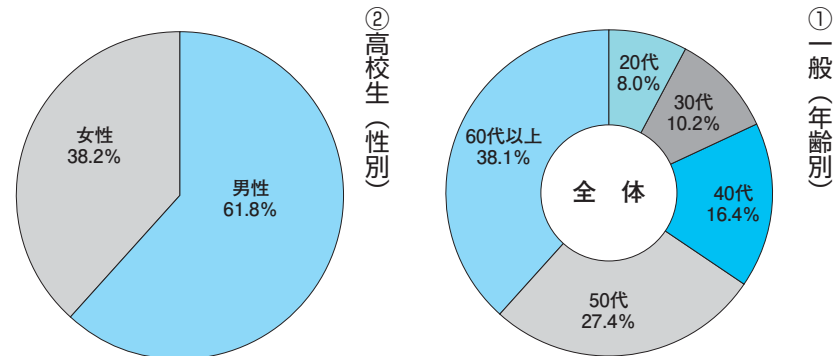
☎子ども家庭課 ☎22-1363

男女がお互いに尊重しながら共に参画する社会を目指して！
人間には生まれつきの「生物学的性別（sex）」があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によってつくりあげられた男性像、女性像があり、このような男性、女性の別を「社会的性別（gender）」と呼んでいます。
当市は、社会的性別が性別による固定的役割分担（例：男は外で仕事、女は家庭で家事・子育て）や偏見などにつながっている場合もあることを市民が意識し、社会的な合意を得ながら社会制度や慣行の見直しを進めることによって、男女の人権が真に尊重される豊かで活力ある社会の実現を目指しています。
これから男女共同参画社会を推進するため、今回、市民意識調査を実施しましたので、その概要をお知らせします。

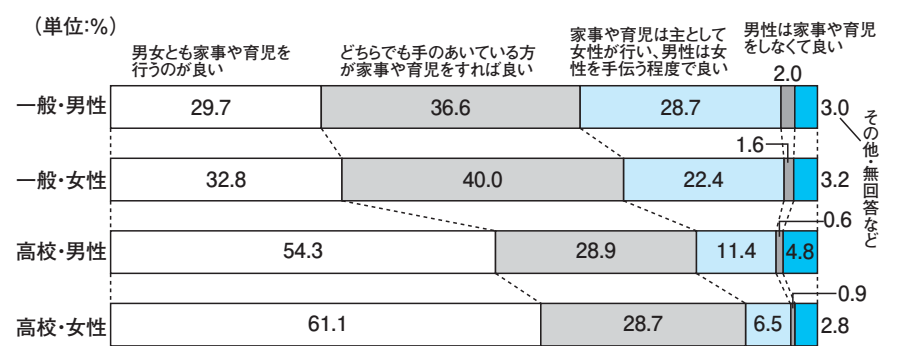
調査の方法と回収結果

- ① 調査設計
- 対象地域 市内全域
 - 調査対象および標本数 市内在住20歳以上の男女500人
 - 抽出方法 選挙人名簿より無作為抽出
 - 調査方法・期間 郵送法・平成17年11月15日～30日
 - 調査期間 平成17年11月～12月
 - 配布・回収結果
 - ① 一般
 - 配布数 500人（女性250人・男性250人）
 - 回収数 226人（女性125人・男性101人）
 - 回収率 45・2%
 - ② 高校生
 - 配布数 学校側に一任 566人（女性216人・男性350人）

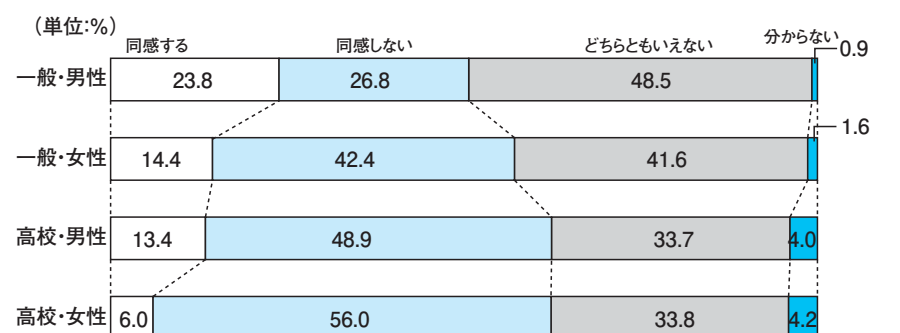
回答者特性



問1 共働き家庭での家事・育児について、あなたのお考えをお聞かせください。

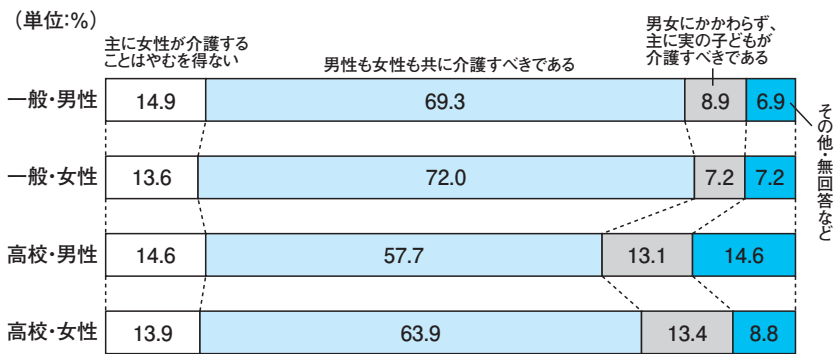


問2 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。



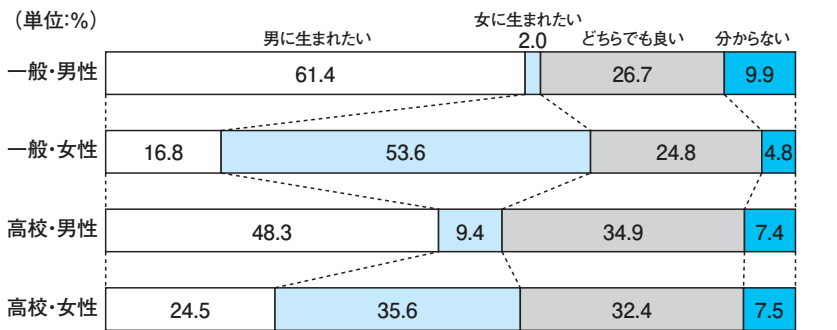
「男は仕事、女は家庭」という男女の性によって役割が異なるとする考え方については、年齢層が高いほど「同感する」比率が高く、若年層になるにつれて、「同感しない」傾向が強く表れています。また、男性よりも女性の方が「同感しない」比率が高くなっています。

問3 現在、介護の必要な親を世話している人の大部分は女性ですが、このことについてあなたの考えに近いものはどれですか。



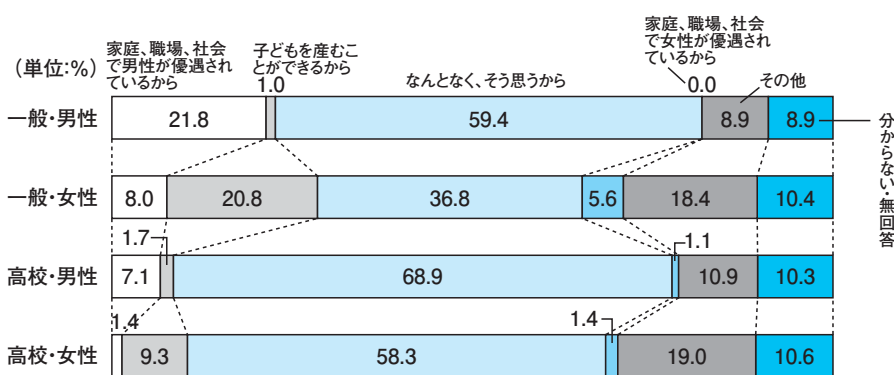
親の介護については、「男性も女性も介護すべき」と答えている人が女性では72・0%、男性69・3%と高い比率を示しています。これは、今までの「介護は女性」という役割意識から一歩抜け出し、男性も共に参加しなければならぬ状況の表れと受け止められます。

問4(1) 今度生まれ変わるとしたら、男に生まれたいですか、それとも女に生まれたいですか。



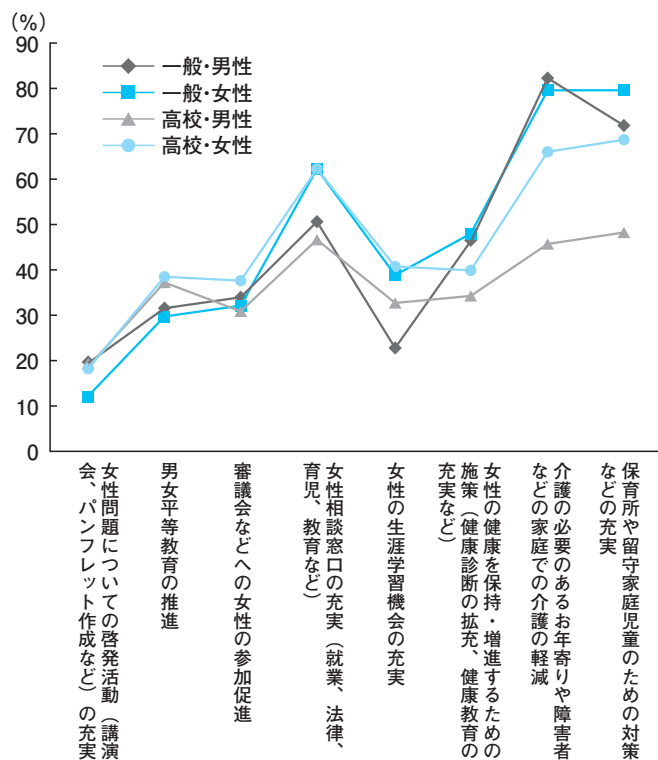
「男に生まれたい」と思っている人は、女性は16・8%、男性では61・4%を示しています。逆に「女に生まれたい」と思っている人は、男性ではわずかに2・0%です。高校生は「どちらでも良い」が多くなっており、「自分の性」に満足しながらもあまり性別にこだわらない傾向が感じられます。

問4(2) それはなぜですか。



生まれ変わるとしたら「男に生まれたい」「女に生まれたい」と思っている人の理由は、「何となくそう思う」が高い比率を示しています。また、男性の「家庭、職場、社会で男性が優遇されているから」を理由としてあげている人は、女性の3倍弱の数値を示しています。

問5 今後当市の男女共同参画を進めていく上で、どのようなものか力を入れるべきだと思いますか。



今後力を入れてほしい施策としては、「女性相談窓口の充実」「介護の必要のあるお年寄りや障害者などの家庭での介護の軽減」「保育所や留守家庭児童のための対策などの充実」の3点に5割以上の要望があり、大きな比率を占めています。次いで「女性の健康を保持・増進するための施策」「女性の生涯学習機会の充実」などがあげられています。
現在、生活をしていく上で直面している問題が数多くあり、その問題を解決することで、男女共同参画が進められると感じている傾向にあります。

調査結果から、男女共同参画社会に関する意識が広く市民に浸透していることが明らかとなりました。男女共同参画の取り組みを始めてから10年。
市では今回の調査結果を今後の行政施策の貴重な資料とするとともに、男女共同参画社会の実現に向け、より一層の普及啓発に努めていきます。

また、調査結果の詳細については、子ども家庭課ホームページ（<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/kodomo/index.html>）に掲載しますので、ぜひご覧ください。